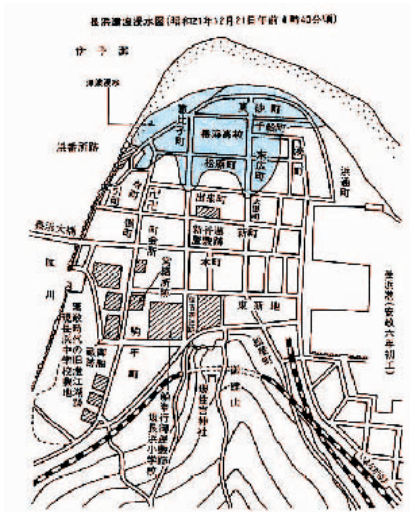




▲昭和南海地震で浸水した肱川河口部 (大洲市長浜町)



▲昭和南海地震による津波の浸水記録 (『災害予防と防災知識』より引用、加筆)

背景

東南海・南海地震により発生した津波は、日向灘ひゅうがなだを通り、佐田岬を回りこみ、瀬戸内海に入ってきます。中央防災会議のシミュレーションによれば、東南海・南海地震により四国の瀬戸内海沿岸部で、高いところで2~5m程度の津波が来襲することが予測されています。昭和21年(1946)の南海地震は、徳島県や高知県などの太平洋沿岸に大きな津波被害をもたらしました。ところが、その被害があまりにも大きいため、瀬戸内海の津波が取り上げられることはまれです。

アクセス 長浜港

- JR伊予長浜より西へ直線距離約200m
- 大洲市長浜町長浜
- 緯度経度 北緯33度36分56秒, 東経132度28分56秒



昭和南海地震では、津波により太平洋沿岸で甚大な被害が発生しました。津波は佐田岬を回りこみ瀬戸内海沿岸にも来襲しましたが、その記録は多くありません。これは、愛媛県大洲市長浜での津波の浸水の様子を当時学生であった人が記録した貴重な記録です。

昭和二十一年(一九四六)一月二二日の午前四時過ぎ地震が発生しました。汽車で松山へ通学していた私は、いつも起きる四時過ぎに玄関へ出てみると、家の前には潮がさして、水深三〇〜五〇センチメートルがありました。

通学のために家を出るのは、五時一〇分頃なので、朝食をすませて五時頃に、長靴をはいて表通りへ出てみると、やはり路面上二〇センチメートルはあります。静かに潮位が上がった感じでした。五時過ぎ駅へ向かおうと、遠まわりして潮が引いていると思われる道を選んで駅に向かったのです。

この潮位が一メートル上がった記録がどこにもないのが不思議です。それによる被害の話も聞いておらず、網納屋で網が濡れた程度です。

学校から帰って一人で歩いて痕跡調査をしました。町のあちこちに潮が来ていたことが分かりました。氷屋の証言から、実際には長浜港沿岸にも潮が上がったことが分かりました。